

## 教育課程編成委員会 第1回議事録

日時：2016年8月23日(火) 19時～20時半

場所：15 教室

出席者： 白井幸久氏 三沢幸史氏 望月太敦氏 小檜山修平氏  
八尾 勝氏 上松 剛氏 倉持有希子氏  
列席者： 加藤和貴氏 品川智則氏 林 恵子氏

### I. 聖書日課 ヨハネによる福音書7章16節～17節 八尾校長

聖書を朗読後、聖書日課の説明があった。下記の通りである。

聖書日課とは世界中のYMCAとYWCAでその日に読む聖書の箇所が決められており、日々の糧となっている。

### II. 議事

#### 1. 委員会の進め方の説明

八尾校長よりアジェンダに従って委員会の進め方と資料の確認がされた。

#### 2. 委員自己紹介

出席委員及び列席者が自己紹介と近況報告をした。

#### 3. 委員長（議長）選出

白井氏を八尾校長が推薦。全員一致で決定。

#### 4. 部会に移動

介護福祉科の部会：白井氏、望月氏、倉持氏、品川氏

作業療法学科の部会：三沢氏、小檜山氏、上松氏、加藤氏

部会に分かれ、8時00分まで（約50分間）介護福祉科と作業療法学科それぞれで話し合いを行った。

学科長から2016年度の学科のカリキュラム全体の姿の説明と今年度の工夫や力をいれている部分の説明を行い、その後、委員から意見、質問をいただきながら話し合いを進めていった。

#### 5. 部会報告

（それぞれの部会の記録は別紙の通りである。より詳細が記録されている。）

●介護福祉科 倉持氏より下記の通り報告があった。

学生が自主的に考えて行動できるようになることを念頭において学科運営を行っている。

学生に対しては、1年の最初に「学習マップ」を示しながら2年間の学習の流れの説明をしている。また、教科以外のボランティア、夏祭り、スポーツデイなどの重要性も伝えている。7月に行った夏祭りは「地域での介護福祉士の役割」を大きく意識して企画実施した。

委員からは、「YMCA」だからこそ、さらに「ボランティア」を全面に出して学生達にアピールしていき、ボランティアを通して学生の成長につなげていくと良いのではないかというご意見をいただいた。また、介護福祉士としての「高い倫理性」や「専門性の理解」という点についても、今後、「学習マップ」を利用しながら、また機会あるごとに、教員間で連携をしながら学生達に伝えていきたい。

●作業療法学科 上松氏より下記の通り報告があった。

これから取り組むこととしては、カリキュラムのコマ数を減らすこと、後期からは専任教員は原則課題を出さないこと。学習支援演習やタテ割班活動は効果的であるため今後も継続する。国家試験対策も年々良くなってきている。実習については、国会でも取り上げられたが、資格を持たない学生が患者に触れることへの問題提議、実習指導者の資質についてなど取り上げられ、今後の実習のあり方が大きく変わろうとしている。

地域で活躍できるOTを育てたいと考え、学生達にボランティアをすすめている。

教員がまず地域と関わり、下準備をしている。学科長は国立市地域保健福祉推進協議会の委員、国立市の介護認定審査委員を担っている教員もいる。

委員からは、今後OTは、自助具、環境調整に加え、ロボットなどの高価な機器についての知識、また制度についても熟知していかないと、取り残されてしまうというご指摘をいただいた。

## 次回の委員会日程

2016年9月23日（金）19時～

記録 林恵子

## 介護福祉科部会 議事録

司会進行 倉持有希子氏

出席者：白井幸久氏 望月太敦氏

記録 品川智則

### 主な報告内容

- ・ 教科概要の改善内容について
- ・ 2年間の学習マップ、学年運営の報告

#### 1) 教科の概要についての説明

倉持(司会者) 前回の提案のあった教科概要に関して報告する。(参加者には学校の教科概要の冊子を提出し確認してもらう)

大雑把なところもあるが、指摘があった具体的なカリキュラムの内容を記入するようにした。

望月・白井 (冊子を見て確認、特にここの部分に関して質問意見はなし)

倉持 次に、学習マップを作成したので確認してください。(別紙の学習マップを提示し確認してもらう)

学習マップには、科目間連携や三つの領域がどのように取り込まれているか記入してある。このマップをもとに教員間の連携を行っている。学生への提示は、ある程度学習が進んだ時点で、提示しており、まずは大枠を示しつつ状況に応じてくわしくマップを使用し説明している。

また、学習マップには、学校行事も含まれており、夏まつり、スポーツデイなども組み込んでいる。学習マップに組み込むことで、行事は息抜きといった目的だけでなく、介護福祉職として学校行事などに、どのように取り組んでいくべきかを考えさせるようにしている。

倉持 次に前回の指摘にあった地域における介護福祉士としての役割が今後、さらに求められてくる中、学校で学べることへの取り組みに関して報告する。学校行事の一つである夏まつりは、今年度、地域とのつながりを取り入れた内容を実施した。今回は、地域の障害者支援の法人と連携をとり、お店を出してもらっている。国立市社会福祉協議会にも参加してもらっている。また、あおやぎ国立苑からは介護相談会を学校内で実施。今後は組織化し毎年きちんと実施できるようにしていくことが課題となっている。組織図をきちんとしめし、学科を超えて実施していくようにする。

品川

一年生の学年運営の考え方の図の説明をする。介護福祉1年生では、求められる介護福祉士像やカレッジスピリットなどを土台とし、卒業時に求められる力に近づけるように、1年時における到達目標を具体的に示している。また、その目標に対して、具体的に実践していただくために様々な取り組みをしている。主なものとして、一人一つの役割をスローガンに委員会や日直、オープンキャンパス委員活動を実施したり、ボランティア活動についても積極的に学生へ働きかけ、参加することの意義や目的を説明し参加を促している。

また、一年生に関しては、複数の教員がチームを作ってさまざまな学生に対して指導している。その中で、厳しい学生もいるが、最終的には介護福祉士の仕事を、責任をもってできるのか、本人にも親にも考えてもらえるような関わりもしていけるようにしている。

2年生に関しては、1年生で学んだ価値観をもとに、そのまま学校生活を送るような形となっている。そのため、1年時の取り組みが重要となる。

## 2) 質疑応答

白井

基本的な学年運営についての意見。

ボランティア活動については、YMCAの大切な価値観の一つになっていると思う。しかし、学年運営の考え方の図で示してあるのは、後期からとなっている。学校の特徴などから考えても、後期になってからではなく、前期から示していく必要があるのではないかと。ボランティア活動から学べることはとても大きい。ボランティア活動を通じて、さまざまな学びや、座学では学べないことも多くある。そのような中で、例えば、実習を実施するまえに、積極的に取り入れていけるようにしていくと、参加した学生の自信やきっかけをつかむチャンスともなり得る可能性がある。普段、先生方は指導しているはずなので、このようなことを、活用できるようにすると良い。特に学力が低下している学生がボランティア活動で褒められる経験があるとさらに、次につながることも考えられる。

また、東京YMCAは、さまざまな形で、当事者との関わりをもてる可能性がたくさんある。そのような東京YMCAの資源を最大限に活用すべきであり、障害者キャンプなどで新たな自分自信や、対人援助職としてのさまざまな価値観などにつなげることが大切であり、そのことが東京YMCAの独自性にもつながってくると言える。

望月

学習マップや学年運営の考え方の図を見て、卒業時の到達目標に向かっていくということがわかった。

考え方の一つにある介護福祉士に求められる資質能力において、とても大切なことの一つに高い倫理性がある。実習などでも学べる機会があるが、卒業時に向けてこの倫理をどのように改めて復習しているのか。

また、今回取り組んでいるボランティア活動や夏祭りなど、地域の人と連携することは学生のうちに体験することがとても大切である。現場でも、求められる力なのでこれからも、地域との連携をどのように学べるのかを考えて実践していくべきである。

また、連携を学ぼうと、大切なことは、自分の専門性をどうもてるかが重要となる。そのことも学校行事やボランティア活動が学べるチャンス。ボランティア活動に参加した時に楽しただけでなく、そこで携わっている人たちや目的意義などを学べる機会があるとさらによいのではないか。

白井

改めて、学習マップを確認すると、生活支援技術とところとからだのしくみの連携が図式化しているのがわかりやすい。また、実習においても全体を通して非常に整っている。実習の指導方法が効果的である。そのうえで、卒論にどのような形でつながっていくかが図式されるとさらに良い。実習を実施していくうえで学力などが厳しい学生がいる中で現在実施している方法をどのように対応していくかが課題となる。

### 3) まとめ（質問や意見を受けて）

倉持

ボランティア活動に関して、学生に対して教育の一環としてさらに全面に出し見える化をしていく必要がある。これまでも、東京YMCAが主催する国際協力募金や障害者キャンプ、石巻被災地ボランティアなどに学生を参加させる試みは行ってきた。しかし、ボランティア活動に関する意義や目的、またそこで学べる地域との連携などを学生たちに伝え、ボランティア活動をさらに教育に結び付けていけるようにしていく必要がある。

倫理性をどう高めていくか、特に卒業時に再びどのようにつなげていくか実習指導の時だけでなく、1年生の時から継続した指導を行い、卒業時にきちんとした形で学び直す機会を設ける必要がある

地域における連携や学び、体験の大切さを継続できるように、夏祭りなどは組織図を作成し、学科としてだけでなく、学校全体として取り組めるよ

うにしていく

学習マップのさらなる改善や、実習Ⅱから卒論発表までの学びの流れを図式化し、具体的に学生に提示できるようにする。

以上

## 作業療法学科部会 議事録

司会進行 上松 剛氏

出席者：三沢幸史氏 小檜山修平氏

記録 加藤和貴

### 部会要旨

上松：

全体的なこととして

レポートは書けるようになってきている、動作分析ができるようになってきている。

学力は低い健康感のある学生を入れる、学力面は教員の努力（教育の力）で補うという方針が功を奏しているのかもしれない。

一方で、自分ができていないことにも気が付けない学生、自分の言葉に自分もだまされてしまう学生、自分の行動が他者の迷惑になっていることがわからない学生、受ければこちらのもの、厳しくされると辞めかねない等、対応が難しい学生もいる。

教員としては、学生に寄り添う・個別対応をする・学習の習慣づけや学力の底上げといったことに時間を割いている。

### カリキュラムについて

学習支援・国家試験対策の比重が重くなってきている。

再試は再々試はなくした。実技は繰り返しOKにしている。

コマ数を減らす方向で考えている。

課題も基本的にはなくす方向で後期からは始める。（内部の教員のみ）

### 授業について

少しだけシステムティックになってきている。

学習支援演習

縦割り班

確認テスト → A チーム（個別対応）

### 実習について

国会での質問（無資格者の実習・・・）

学科の方針を伝える。SVM 欠席の施設には出向いて説明する。

実習指導者のレベル、送り出す学生のレベル。

### 地域で活躍できるための教育について

検討課題。

1年生のボランティア委員。

教員の地域ケア会議、国立市地域保健福祉推進協議会等への参加。

訪問C型への協力？

退学者について

1年 3名 怪しい人2名

2年 1名は確定的

## 【 質 疑 】

三沢：コマ数を減らすことに対する代替案はあるのか。減らす理由は？

上松：疲弊している感が強いので、単純に減らす。減らした分は空いたままにし学生に余裕を持たせる。

解剖など基準より多い科目もあり、それらを減らす。

小檜山：空くのは（一日の）最後のコマだけか

上松：そうとは限らない。なるべく中間の空コマ作らないようにカリキュラムを組みたい。

小檜山：あえて授業の間に空駒を作ることで勉強する時間としてはどうか

小檜山：学生のモチベーションはどのように上げるのか

加藤：ほめることを心掛けているが、それを受け入れられず、自己評価が高まらない学生も多い。その頑なさ、実習などでも成長する経験を阻害している可能性がある。

三沢：新人職員も似ている傾向がある。ここ10年くらいの新人は泣いたりしても頑張って食らいつく人が多かったが、最近は食いついてくる職員は少ない。内にこもっている感覚はある。埋もれていくような職員もいる。専門学校でも大学出身でもそれは変わらない。

小檜山：入学動機などで熱い思いやエピソードを語る学生は？

上松：ほとんどいない。

加藤：受験用にまとめた感がある。

三沢：OTスタッフが語る場として、OTの事しか話さない食事会や、OTだけの合宿などを行っている。

夜中の2時3時まで「自分のOTを語る」プレゼンを行ったりしている。

小檜山：対象者と面接の際に、「今後どのように生活したいか」をまず聞くようにしている。その上で協業していくことで、目的がある為モチベーションになる。

上松：もっと語らないといけないのかもしれない。

三沢：何らか背景がそれぞれあるので、語る場があっても聞いてみてもよいのでは。

小檜山：やはり熱い思いが必要。

## 【現場から学校に期待する事】

三沢：道具や、昔と違ってロボットなども含めて、そこに対して親和性を持つことが今後大切では。介護ロボットやリハ関係も今後当たり前になってくる。そういった面にも興味を持てるようにした方がよい。ホンダのアシストロボットがテレビ放送され問い合わせが殺到したり、3D プリンターを利用した展示発表など今後発展を予期させるものが増えている。

医療従事者の需給計画が変わる。10月に医療福祉介護3分野について出す。1年半後の同時改定を想定している。そこでOTの方向性も影響されてくる。

上松：地域での連携は有用だなと思うが、基礎的な力がないと連携にならない。教育もそこを考えねば。

三沢：OTは医療の基礎知識がしっかりしている前提が大切。そこがないと利用者から見限られてしまう。

小檜山：制度について知識があると良い。目白大などの実習を受けているが、その根拠となる制度は何か最近では考えるようになった。学生のころから料金なども含めた制度について知っておく必要があるのでは。

上松：関わっていない分野は制度も忘れがちになってしまう。

小檜山：病院にいたころは義肢についてPTに任せっぱなしだったと反省している。

上松：学校ではどのあたりまでやればよいのか

三沢：少なくとも自分の給料に関する制度などは知っておくと良い。

以上

記録 加藤和貴